

令和4年度 岡山県モデル事業

個別避難計画策定で 見えてきたもの

里庄町殿迫分館

自主防災会 防災士 生宗康司

里庄町・殿迫分館の概要①

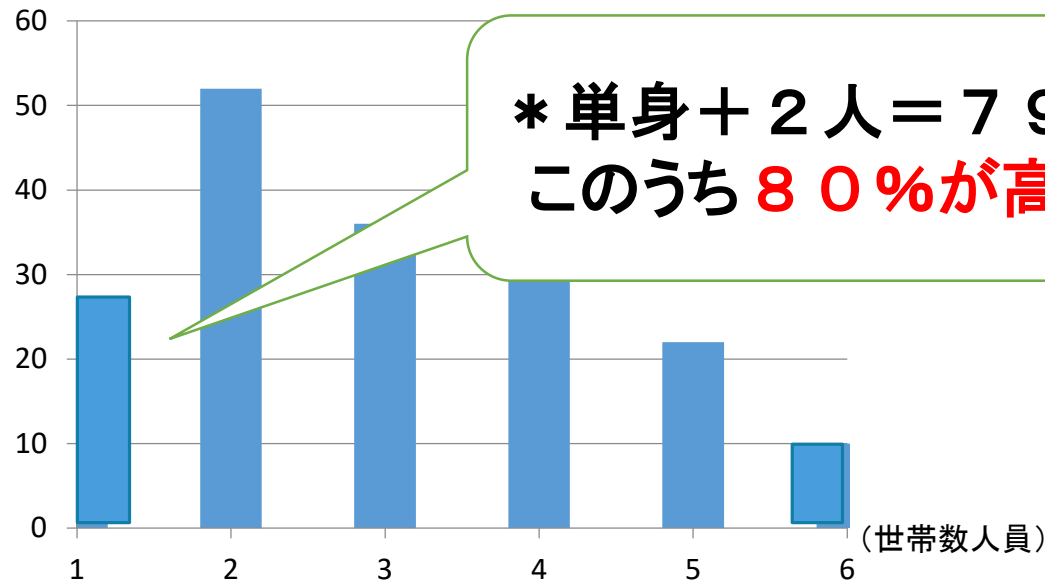
- * まちの面積 12.23km²
- * 自治会のことを「分館」という
- * 分館の代表者を「分館長」という
- * 分館は37の地域に分かれている

	里庄町 ①	殿迫 ②	割合②／①
人口	約11,000人	549人	5%
世帯数	約4,600世帯	179世帯	4%
高齢者数 (65才以上)	3,450人	204人	6%

里庄町・殿迫分館の概要②

(世帯数)

世帯人員別分析



* 単身 + 2人 = 79世帯
このうち 80% が高齢者世帯

災害弱者となり易い高齢者

- ・人員比 37%
- ・世帯比 35%

キーパーソンは老人パワー

分館各部会の状況

- ・老人会活動 毎月の殿迫サロン等活発な活動
- ・若手自警消防団 防火水槽管理や年末夜警で子供会とコラボ！
- ・秋祭り 歴史ある千歳楽で地域を盛り上げ
- ・町体育大会や各種大会で優勝常連 いざの時まとまりは非常に良い

個別避難計画作成のきっかけ

ステップ① 準備・浸透期間

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
準備委員会 ・組織の在り方 ・防災計画、規約 ・地区の被害想定 ・啓蒙活動	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 自主防災会 発足 </div>	・備蓄土ノオ作り ・炊出し訓練	7月豪雨の対応 防災訓練 ・消火栓ホース接続 ・ロープ結束

ステップ② 継続・発展期間

2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
殿迫防災マップ作成 防災訓練 ・防災講話 ・消火器訓練	殿迫防災マップ配布 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 20px;"> * 戸別受信器設置PR活動 </div>	防災訓練 ・防災ウォーク	個別避難計画策定 スタート年 ・わが家のタイムライン ・個別避難計画の研修

モデル事業の流れ

アドバイザー

城西まちづくり協議会事務局長 佐々木 裕子 氏

ノートルダム清心女子大学 准教授 中井 俊雄 氏

第1回部会

- ・個別避難計画の必要性
- ・地域の現状把握

第2回部会

- ・マイタイムラインの作成
- ・聞き取り調査等演習

* 事前準備作業 [要配慮者名簿、同意、アポ取り、聞取調査他]

第3回部会(地域調整会議)

- ・聞き取り結果確認
- ・個別避難計画作り

第4回部会

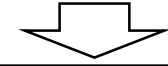
- ・避難訓練の実施
- ・検証と見直し等

第1回部会 (R4.7.3) * 開会前に町歩き

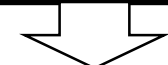
- 1) モデル事業の概要説明 (県)
- 2) 講 話
 - ・ 地域防災計画について (講師)
 - ・ 避難行動要支援者と個別計画 (講師)
- 3) 防災情報の入手について (県)
- 4) ワークショップ
 - ・ 地域の現状把握と計画作成



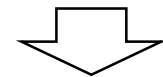
白馬の奇跡
支え合いマップ



殿迫防災マップを用いてワーク
* 浸水危険エリアに世帯半数が入る
要配慮者も同様比率が判明



* 緊急時の避難確認や救助
* 平時の見守り、声掛けに
有効のツールとなる



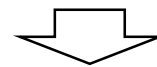
* 個人情報管理
同意の必要性

第2回部会 (R4.9.18)

- 1) 地域資源の把握と活用方法 (講師)
- 2) タイムラインの作成 (講師、ワーク)
- 3) 個別計画関係様式とシュミレーション
 - ・各様式案の説明(町)
 - ・聞き取りシュミレーション(ワーク)
聞き取り者、要支援者、立合い家族
3者で演習ー4班



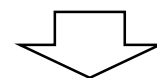
避難情報前の声掛けが重要



* 支援者頼りで良いのか？
組織的なチェック体制が必要！

- ◎ ここまで本当に必要か？
- ◎ 警察の取調べの様だ！

* ガイドライン様式細か過ぎる
* 身体関連項目多く
聞きづらい、答えづらい



* 福祉関係部署で事前把握
確認程度に工夫

事前の準備作業（R4.9.27～）

[第3回事前調整会議に向けて]

- 1) 要支援者5～7人の選定と理解活動
- 2) 聞き取り調査実施
4人／チームで分担
- 3) 聞き取り結果から個別計画案づくり
- 4) 要支援者名簿関係協議
 - ①優先度ランクの検討 浸水リスク評価
 - ②70才以上のみ世帯について
* 43世帯70人が該当(13%)

元気な方は除外方向で

*** 70才代は地域活動の主力
支える側で**

*** 個別アンケート: 名簿登載希望者は
「要配慮者登録台帳」へ申請**

- ・アポ取りは面識のある民生委員で
- ・項目過多、間取りまで必要？

様式の簡素化

- ・面識、信頼、コミュニケーションのある人でないと難しい
- ・支援者、避難先は本人希望を優先

第3回部会 (R4.11.23)

1) 地域調整会議について (講師)

- ・避難行動要支援者のニーズと備え

2) 地域調整会議 (1組20分程度)

- ・聞き取り結果とニーズの確認
- ・聞き取り結果とニーズの確認

3) 振り返り討議

- ・決めるべき事ができたか
- ・調整会議の運営要領はどうか



- ・本人希望は優先するも
できる事、できない事は区別
- ・支援者の複数配置(昼夜、休日)
- ・1人の複数受持は避ける

具体的支援内容等の共有化が計れる

今回の実施形態 — 多過ぎた！

- ・要支援者
- ・支援者2
- ・行政2
- ・民生1
- ・自主防4
- 計9人

- * 人数多く受身になり易い
要支援者の負担過大
- * 個人の特性に合わせ工夫を
- * 重度の障害や持病の方
地域主体は無理、専門知識なし
福祉関係と連携役割分担を

第4回部会 (R5.1.22)

1) 里庄町防災訓練

- ・避難所設営訓練 (町、自主防)

2) 要支援者避難訓練、検証

- ・避難手順の確認
(役員1名帯同しチェック)
- ・避難情報

①分館放送 ②戸別受信器

③防災アプリ

3) 避難所運営訓練

4) 振り返り・検証討議

* 非常持出しに慌てた人もいた

* 訓練だから何とか、本番だと不安の声も

[各家庭のタイムラインが重要]

事前の準備と心構え



里庄方式の

- ・分館放送
- ・個別受信器
- ・防災アプリの3点セットは、より有効な手段と確認

* 避難情報伝達方法

分館放送は冬場聞こえ難い

モデル事業を通じて

* 色々な経験やノウハウを得ると共に課題も多く見つかった

効果

- ・地域の現状等について、課題も含め 共有化が進んだ
- ・ワーク等の積極的参加発言で、防災意識や関心も高まり個別計画作成の理解も深まった

課題

- ・行政側、地域共にそれぞれ 限界 がある
- ・重度の障がいや社会的孤立等の支援方法
- ・一般に支援が必要な方は、地域との交流が少ない
- ・個人情報管理面で、平時と緊急時の取扱いの検討

来期に向けて

- 1) **地域ぐるみの、理解と支援**が必須[要支援者、支援者も含めて]
* あらゆる方法や場を通じての**理解活動を展開**
- 2) 地域主体と言えども、単独ではできない
* 行政や福祉関係部署との**役割分担や連携強化**
- 3) **推進マニュアル**を整備し、計画的に推進すると共に人材育成の研修に活用する
- 4) 各世帯のタイムライン作成を進め、**相乗効果**を狙う

モデル事業を終えて

岡山県危機管理課、講師の先生方の皆様にはご指導・
ご支援を頂き大変お世話になりました

殿迫自主防災会スローガン

[継続は力なり 停滞は後退なり]をモットーに引き続き頑張ります



ご清聴ありがとうございました

里庄町 殿迫自主防災会

